

松木日向緑地プログラム  
松木日向緑地の竹林整備  
+  
「都立大で竹を切ろう！」  
(体験会)

連携団体 ひなた緑地遊学会

2020年12月19日 (土)

報告



都立大で竹を切ろう！

12月19日(土)、前回に続き「都立大で竹を切ろう！」と題した竹林整備活動の体験会を実施しました。天候にも恵まれた今回の体験会には、様々な学部・学科から新入生を含む学生にお申し込みいただきました。当日は、募集定員いっぱいとなる4名の学生を受け入れ、竹林整備を行いました。

当日の様子

今回はまず、コロナ禍で例年通りの管理ができなかった竹林での生態系を調べるという「ひなた緑地遊学会」の方々に同行し、かつてたぬきの溜め糞があった場所にたぬき観察用の暗視カメラを設置しました。この時に、プログラムメンバーから体験者の方に、これまでの松木日向緑地及び竹林の様子についての説明を行っていました。

続いて、今回のメインの活動である「竹の間伐体験」を実施しました。感染防止のための距離をとりながら、グループごとに実施した間伐作業では、のこぎりで竹を伐採して、安全に倒し、適度な長さに切り落として枝をはらうという一連の流れを体験しました。特に竹の伐採では、受け口、追い口の順番で竹にのこぎり刃を入れていくのですが、その角度や切り込みの深さが重要なポイントになります。体験した学生について、最初の1~2本目はこのポイントについて思い通りにいかず、竹を伐採するまでに時間がかかっていました。しかし、次第にバランス良く切れ込みを入れられるようになり、最終的にはプログラムメンバーが付きっきりでなくても安全に竹の間伐することができるようになっていました。

最後に、住宅街に近いエリアの整備を行いました。このエリ

アでは、樹木に太い蔓が絡まり、締め上げるような状態になっています。そのまま放置してしまうと樹木が枯れてしまうので、今回はその蔓を取り除く作業をしました。実際に作業を始めると太い蔓を切るのは簡単だったのですが、その後に樹木からほどいていく作業が大変でした。スパイラル上に絡まっているため、樹木の周囲を回しながらほどいていくのですが、高いところまで絡まっており、さらに枝に複雑に引っ掛かっていたりしているため一筋縄ではいきません。自然の力を改めて感じた作業でした。

参加者の声

- ・貴重な体験をありがとうございました。まず、想像以上に立派な竹林で、大変驚きました。圧倒的な大きさの竹を切る体験はすごく興味深かったので参加したものの、初めての体験で内心とても緊張していました。しかし、竹の切り方から枝の落とし方、なぜ(枝を)落とす必要があるのか、整備の結果生態系はどのように変わったのかなど、皆さんが丁寧に指導してくださり、楽しんで活動しているうちにあっという間に時間がすぎてしまいました。  
授業等で里山の保全が大切で、大学でも行われているということを知っていたつもりでしたが、実際に体験したことでその大変さや大切さをやっと少し理解できたような気がしました。様々な方々の協力があってこそ、生態系が守られていることを実感するとともに、感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・思ったより本格的な斜面で竹を切ったのが印象的でした。竹を切る際の基礎知識がついて良かったです。
- ・竹を切るのは一見簡単そうな仕事ですが、実際にやってみて、その難しさを味わいました。体力だけでなく、テクニックも必要な仕事だと実感しました。自然と触れ合うこともできたので、とても良い体験でした。特に、指導者の方は丁寧でした。
- ・説明もフォローもしっかりあって、丁寧に教えてもらえてよかったです。ずっと家でオンライン授業受けてたので、自然に触れられて癒されました。

たぬき観察用暗視カメラを設置している様子



今回の活動の様子も本センターのYouTubeチャンネルで公開していますので、ぜひご覧ください。

都立大ポラセン  
YouTubeチャンネル

当日の様子を公開中!

